

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.35 ◇◆

2011年7月29日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
 - ・警察政策学会シンポジウム『『サイバー犯罪の現状と対策』
～不正アクセスから国民・経済を守る～』参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイト更新情報
 - ・国の取組み情報
 - ・イベント情報
 - ・見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード
連携事例

◆◆◆◆

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

今年は各地で平年より早く梅雨が明け、暑さの厳しい日が続いています。梅雨明けの時期については、関東地方では統計史上7位タイの早さだそうです。夏を待ちわびていた人にとっては、嬉しい結果です。

天気に限らず、様々な分野で統計が取られています。統計結果は傾向を知る上で貴重な情報源ですが、単なる傾向として流せないものもあります。

厚生労働省が公表した平成 22 年度に全国の児童相談所で対応した児童虐待相談対応件数が 55,152 件（宮城県、福島県、仙台市を除く）と過去最高を記録したとのこと。

相談対応件数の増減だけでは、被虐待児が増えたのか、通報しようと思う人が増えたのか、要因を一概に判断できないところもありますが、相談件数が増えたということは、社会的関心の高まりとも言えるかもしれません。

同省では、平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までの虐待による死亡事例など重大な事例（77 事例 88 人）について検証を行っており、その結果についても上記統計結果と共に公表しています。それによると、死亡した子どもの年齢は、虐待死事例では、0 歳児が 20 人（40.8%）と一番多く、虐待の種類は、身体的虐待が最多（59.2%）とのこと。必要な対応として、望まない妊娠への対応、妊娠期からの継続的な支援体制などが挙げられていました。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001jq1.html>

上記問題同様、18 歳未満の子どもの性的虐待の画像がインターネット上でやり取りされる児童ポルノ問題についても、送致人員、被害児童数共に増加しています。警察庁が全国の愛好者や手口などの情報を盛り込んだデータベースを作成する方針を固めたとの報道がありました。

インターネット上では、先の児童ポルノをはじめ、様々な問題が懸念されています。コンピューターウイルスや不正アクセスなどのサイバー犯罪もその一つではないでしょうか。今月中旬にそのサイバー犯罪をテーマにしたシンポジウムが開催されました。当日の様子は今号のレポートにて紹介していますので、ぜひご覧ください。

それでは最後までお楽しみください。

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

今月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。

領域 WEB サイトにて、新たな試みとして、全国キャラバンページを本日公開しました。全国キャラバンは、「犯罪からの子どもの安全」の成果を地域社会に還元し、また地域社会からフィードバックを得て今後の取組みに活かすことを目指して、全国各地で開催しているイベント等の取組みです。どんな情報が掲載されているのか、詳細は今号の「見どころピックアップ!」をご参照ください。

その全国キャラバンの一環として、7 月 30 日に大阪府堺市で「フォーラム:

東日本大震災に学ぶ 私たちの安全・安心『堺のまちをもっと安全に、もっと安心に！』が開催されます。

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築ハート・ルネサンス」
「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトを中心に、プロジェクトの取組みだけに留まらず、この度の震災も視野にいれ、幅広い視点で子どもの安全やコミュニティについて考えていけるようなイベントとなる予定です。ご興味ご関心のある方はぜひご参加ください。

<http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/20110730.pdf>

ここからは、7月中に各プロジェクトで実施された会議等の活動についての報告です。

「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」プロジェクトは、7月19日に会議を行い、総括、領域担当がサイトビジットを実施しました。プロジェクトに協力して下さる地域の代表者も参加。成果創出に向けて、プロジェクト実施者、協力者含め、関わる人々のコミュニケーションが重要だと再認識しました。

「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」プロジェクトは、7月24日に当領域のキャラバン企画として、日本教育心理学会第53回(2011年度)総会において、自主シンポジウム「子どもの安全：ネット社会での子どもの被害と加害を防ぐには？」を開催しました。

「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」、「子どもの犯罪に関わる電子掲示板記事の収集・監視手法の検討」を合わせた3プロジェクトからの話題提供の他、指定討論者として竹内和夫氏（寝屋川市教育委員会委員）を向かえ、来場者とともに、今後の取り組みのあり方について討論が行われました。多分野連携の重要性を広め、再認識する機会となりました。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトは、7月25日に実施者会議を開催しました。アドバイザー2名がサイトビジットを行い、進捗状況などを確認してきました。

領域では、7月13日に第32回領域会議を実施。その中で「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトの実施者による進捗報告を行いました。現時点でのプロジェクトの状況を確認できたのはもちろんのこと、今後の方針や成果の創出に向けた活発な意見交換がなされました。

7月22日には評価委員会が開催され、当領域で昨年度で終了した2プロジェクトの成果報告と、現在進行中の2プロジェクトの進捗報告を実施。事後評価は、プロジェクト終了後の展開や、今後の領域運営だけでなく、社会的課題解決を目指した研究開発をどう推進したらよいか、センターの運営改善にも重要で、結果が待たれます。

2. 犯罪からの子どもの安全レポート

- 警察政策学会シンポジウム『『サイバー犯罪の現状と対策』
～不正アクセスから国民・経済を守る～』参加レポート
2011年7月14日 グランドアーク半蔵門（東京都千代田区）

今年4月に発生した、ソニーのゲーム機「プレイステーション」のネットワークへの不正アクセスにより、ユーザー約7700万人の個人情報が出たという出来事は記憶に新しいと思います。傘下の米ソニー・エレクトロニクスによると、不正アクセス者が入手したとみられる情報は、ユーザーの名前、住所、電子メールアドレス、誕生日、ログイン情報などとされています。

この一件がソニーの2011年度の営業利益に約140億円の影響を与えていると言われています。また、クレジットカード情報が不正アクセス者に入手された可能性を完全に否定することはできないとしており、個人が被害に遭う可能性もまだ残されており、不安が募ります。

そのような中、標題のシンポジウムが開催されました。本領域では、子どもを取巻くインターネットの危険を対象としたプロジェクトもあります。今回は、“子ども”を対象としたものではありませんでしたが、同じサイバー空間での問題ということもあり、参加してきました。

刑法犯は年々減っているにもかかわらず、サイバー犯罪の検挙数は増加傾向を示しているとのこと。増加の背景には、犯罪が組織的・国際的になっており検挙が難しい、直接取り締まる法律がない、不正アクセス禁止法の牽制効果が高くないといった懸念があるようです。

インターネットは匿名の世界とお思いの方も多いと思いますが、実はIPアドレスによって、ある程度発信者の追跡が可能です。今年の冬の入試シーズンに世間を騒がせた、入試問題のインターネットの質問サイトへの投稿についても、投稿者のIPアドレスが記録されており、そこから投稿に使われた携帯電話の情報が判明しました。

しかし、情報流出やその拡散などの場合には、その行為自体に対する法整備が十分ではないため、IPアドレスが追跡できても、取り締まりが困難とのこと。例えば、ある会社の情報流出のケースでは、意図的に自社の情報を流した人物が特定できたにも関わらず、逮捕されなかったそうです。

上記のケースでは、情報を流出させた理由として、「ばれないと思った」「クリック一つで簡単にできてしまうため、罪悪感がなかった」と述べていたそうです。こういった理由は、ネットいじめなどの問題でも子どもたちからよく聞かれます。顔が見えないからと言って、なんでもありの世界では決してありません。しかし、そう錯覚させてしまうインターネットの恐さを改めて実感しました。

さらに、サイバー攻撃では、攻撃した者の追跡すら困難な場合もあるとのこと。それは、海外サーバーやウイルス感染したパソコンを経由しているなどの場合です。海外のサーバーを経由しているという問題点は、児童ポルノなどの違法・有害情報のケースでもよく指摘されています。削除依頼を出そうにも、出せないのです。

こういった現状を踏まえ、今後必要なこととして、国際間や組織間の連携、被害情報の共有、犯人をきっちり取り締まるための法律の整備などが挙げられました。また、ネットの世界はだれが何をやっているのかが分かるという認識が定着し、守る側の意識を高めることも重要であると述べられていました。

子どもを取巻くインターネットの危険では、サイバー犯罪とは少し質の違う「違法・有害情報」「掲示板などを通じた悪意のある大人との接触」「誹謗・中傷」などが主な問題として聞かれますが、今回の講演を聞いて、双方に共通する課題や対応策が多々あることが分かりました。

また、今回は警察から報道機関、民間企業など様々な立場の方が登壇者として顔を揃えていて、この問題に対する共通認識があることも示されたので、それが今後具体的な形となって、活路が見出されることを期待したいです。

(領域担当 S.F.)

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイト更新情報

【更新情報】

●国の取組み

平成 23 年度都道府県・政令指定都市犯罪被害者等施策主管課室長会議資料
掲載（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/hanzai/local/work2011.html>

警察における取調べの録音・録画の試行の検証について（警察庁）

[概要] <http://www.npa.go.jp/sousa/kikaku/gaiyou.pdf>

[本文] <http://www.npa.go.jp/sousa/kikaku/honbun.pdf>

死刑の在り方についての勉強会（第 6 回）を開催いたしました（法務省）

http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12_00032.html

子どもの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐ～地域とともにある
学校づくりの推進方策～（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/078/houkou/1307976.htm

第3回児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会 議事録
(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001hjzh.html>

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成23年7月30日 フォーラム：東日本大震災に学ぶ 私たちの安全・安心
「堺のまちをもっと安全に、もっと安心に！」

<http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/20110730.pdf>

平成23年8月7日 日本弁護士連合会 国際犯罪学会第16回世界大会
公開シンポジウム「可視化と『あるべき取調べ』
可視化はどのような変化をもたらすのか？」

<http://www.nichibenren.or.jp/event/year/2011/110807.html>

平成23年8月8日 国際犯罪学会公開シンポジウム「科学的根拠に基づく
子どもの被害防止－研究から実践へ－」

<https://www.ilcc.com/isc2011-kodomo/>

平成23年8月26日 日本教育学会第70回大会 公開シンポジウムⅡ
「子どもの安全と健康」

<http://www.jera70.jp/contents07.html>

原田代表および元領域アドバイザーの藤川氏が登壇されます。

平成23年8月27日 発達障害者支援フォーラム in 横浜

http://www.shinseikai-y.jp/01_news_201101_01.html

その他のイベントについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【見どころピックアップ！】

今回の見どころは、冒頭でもご紹介した全国キャラバンページです。

今後開催予定のイベントやこれまでの開催実績ももちろん掲載していますが、今回の目玉はなんとと言っても「講師紹介」のコーナーです。

当領域には、研究者から実務家まで、「犯罪からの子どもの安全」に関する取組みを行う幅広い方々が関与しています。講師紹介では、趣旨が合う講演会等のイベントについて、講演者として、関係者をご紹介させていただくことを考えておりますので、講演を依頼したいという関係者がおりましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。

全国キャラバン

→ <http://anzen-kodomo.jp/preview/event/caravan/>

4. 「犯罪からの子どもの安全」WEB サイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

☆1位 プロジェクト関係者インタビュー

携帯電話、インターネット問題の怖さを子どもを見守る親の立場から伝えたい（ぐんま子どもセーフネット活動委員会）

http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad_04.pdf

2位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム

山中龍宏氏講演資料

http://anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/sympo04/sym_01.pdf

3位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム 予稿集

<http://anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/sympo04/yoko.pdf>

5. 今月のキーワード

「連携事例」

子どもが地域で安全・安心に暮らすためには、様々な人々や機関の連携した取組みが欠かせません。実際に行われている取組みは多数あるかと思いますが、どれだけの地域でどんな取組みが行われているのかを把握することは難しくもあります。

文部科学省子どもを見守り育てるネットワーク推進会議が、子どもを見守り育てるネットワーク活動の活性化が図られるよう、地域において他機関・団体等と連携しながら取り組まれている具体的な事例など、特色のある事例を紹介する「子どもを見守り育てる事例集」を作成しました。

内容は、子どもの人権から、虐待、非行防止など多岐に渡っていて、実施地域や機関も全国様々です。単なる取組みの紹介に留まらず、連携にあたっての苦労や工夫、これまでの成果と今後の課題なども盛り込まれており、興味深いものとなっています。

文部科学省 子どもを見守り育てる取組事例集

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/068/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2011/07/15/1307891_01.pdf

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2011年7月29日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域 WEB サイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEB サイト <http://www.ristex.jp/>
